

梅雨と梅

梅の実が熟すころ



「七変化」、「八仙花」といった異名のあるアジサイが、そこかしこ青や薄紅のさまざまみな色合いを競っています。

梅雨の間、咲き始めから終わりまで微妙な色の移ろいを見せる花が何とも不思議です。

さて、「つゆ」を漢字で「梅雨」と書きます。なぜ「梅」と「雨」の文字なのか気になっていました。この疑問を解決してくれそうな文章に出会いました。つまり梅の実が熟するころ、しとしと雨が降り続くからという説のようです。梅雨の雨に何度か打たれた梅の実は最上とも言われており、なるほどと妙に納得しました。

「青梅は決して食べてはいけない」親からこう注意された昔を思い出します。

青梅は青酸化化合物を含み、生食すると下痢や腹痛を引き起こします。今になって、親から口酸っぱく言われたのもうなずけますが、こっそり口にした覚えのある人も案外多

いのではないでしょうか。

物が不足し、日本がまだ貧しかった時代のことであり、豊かになった今、青梅を食べようという子どもはいないようです。また、そんなことを知っていて言う親もいないでしょう。雨に濡れた梅の前に、懐かしさの一方で今昔の差に複雑な気持ちになりました。

「梅はその日の難逃れ」という言葉もあります。朝、梅干しを食べると、その日一日災難に遭わず、元気に過ごせるという意味です。日本人が古くから梅干し入りの「日の丸弁当」を愛用してきたのも、こういう理由からなのでしょうか。

以前は多くの家庭で梅干しが漬けられていました。台所の棚の奥まったところに、透明の瓶に入った母の漬けた菱しなびた梅干しがあったことを思い出します。

指宿市長 豊留 悦男